

## 国際・災害対策委員会 基本方針（案）

国際・災害対策委員会 委員長 船津 和弥

1 昨今、新型コロナウイルス感染症の拡大により、人と人との密なコミュニケーションが  
2 制限されている中で、国際交流事業において従来の形式を用いた交流を推し進めて行きた  
3 い反面、見直された手段であるオンラインを使った交流も視野に入れた取り組みが必要で  
4 す。災害においては近年、水害による被害が多発している現状があり、災害時の対応とし  
5 て、それぞれの機能や役割をより有効なものへとするために、一般社団法人佐賀青年会議  
6 所だけでなく他団体と連携・協力していく必要があります。

7 まずは、諸先輩方が 1985 年から継続されてきた姉妹 J C である社團法人台南市新營  
8 國際青年商會との交流が 37 年目を迎え、これまで以上の繋がりを強固なものにするため  
9 に、佐賀青年会議所一同総力を挙げ、新營 J C メンバーと佐賀の観光資源や伝統文化を体  
10 験することで、より良い関係性を創り上げます。そして、正確な意見交換を行うために、  
11 オンラインを使用しあわせに顔を合わせ協議することで、これまで以上に密なコミュニケ  
12 ーションを図ります。さらに、新營 J C と佐賀青年会議所の交流だけでなく他団体を含め  
13 た交流をするために、合同で交流できる場を提供することで、対外に向けて佐賀青年会議  
14 所のさらなる魅力を発信します。また、被災地の情報や必要とされている物資を迅速に供  
15 給するために、平常時に他団体との連携を図りつつ知識や意識を向上させ相互理解を深め  
16 協働することで、行政だけでなく佐賀青年会議所が率先して他団体と連携を取りあえる関  
17 係性を創り災害時に、より機能する団体を目指します。

18 國際交流を通じ言葉の壁を越えておもてなしの心を体感し、災害に対しても団体の垣根  
19 を越え限られた期間の中で他団体との連携を深め、人と人との出会いに感謝し改めてこの  
20 地元佐賀の素晴らしさを実感し、個人の成長につなげるとともに、現在（いま）を生き抜  
21 き次代へつないで参ります。

22

23

### 24 [事業計画]

- 25 1. 新營 J C 受入れ・会務交流会議の企画・運営（9月）
- 26 2. 裸ん行（大川）参加者への支援（2月）
- 27 3. 例会の企画・運営（3月）
- 28 4. A S P A C （台湾／台中）参加者への支援（6月）
- 29 5. J C I 世界会議（南アフリカ／ヨハネスブルク）参加者への支援（11月）
- 30 6. 会員拡大 拡大目標 委員会 5 名（通年）